



平成28年度事業報告および平成29年度の取組について

平成28年度事業報告

1 エイジフレンドリーパートナーづくり推進事業

(1) 事業概要と現在の事業者数

秋田市と連携してエイジフレンドリーシティの実現に取り組んでいこうとする事業者・団体等を、「エイジフレンドリーパートナー」として登録する制度であり、平成28年3月21日現在で66事業者・団体が登録をしている。

(2) 事業報告

ア エイジフレンドリーパートナーパネル展の開催

期間：平成28年10月4日～31日

会場：秋田駅東西連絡自由通路
(ぽぽろード)

パートナー事業者1社につき、A1サイズのパネル1枚を展示。約1カ月にわたり、市民に対しパートナーの取組内容に関する情報発信を行った。



イ 秋田市エイジフレンドリーパートナー研修会の開催

日時：平成28年10月27日

会場：秋田市役所正庁

参加者：66名（パートナー：36社、パートナー以外：9社）

高齢者にやさしい地域社会づくりの推進にあたり、秋田のシニアビジネス市場に広がる可能性と、ビジネスを通じた地域課題の解決について意識と知識の向上を目的に開催した。また、各パートナーのモチベーション向上および取組のさらなる充実化につながるよう、エイジフレ



ンドリーパートナー2社が、自社の取組内容の発表を行った。

○第1部 基調講演

「シニアビジネスの可能性－秋田の強みを活かし、グローバルな視野で」

講師：村田裕之氏（東北大学 特任教授）

高齢者の消費行動とビジネスチャンスや、地域におけるシニアビジネスの掘り起こし等について講演を行った。

○第2部 秋田市エイジフレンドリーパートナー取組事例発表

発表：「あきた終活支援センター」 「福祉理容店 幸のとり」

高齢者や障がいのあるかたに対するやさしい取組に関して事例発表を行い、参加したパートナー事業者へ共有を図った。

○第3部 鼎談「秋田発シニアビジネスの創出・発展の可能性について」

出演：村田氏、後藤純氏（東京大学高齢社会総合研究機構 特任講師）、

栗山奈津子氏（株式会社あきた森の宅配便 代表取締役）

地域資源を活かした栗山氏の事業（※）や、事例発表を行ったパートナー2社の取組を題材とし、秋田市におけるシニアビジネス創出の可能性について考えるディスカッションを行った。

※「株式会社あきた森の宅配便」では、地域の高齢者を「山の名人」とし、山菜採りを委託することにより、高齢者の生きがいにつなげるとともに、秋田の名人が採った山菜という価値を付けて首都圏の顧客に販売している。

○参加したパートナーからの声

「秋田の地域性を改めて吟味し、新たなシニアビジネスを検討したい」

「自社の強みを見直し、高齢者にやさしい取組について改善につなげていきたい」など

(3) 総括と課題

パートナー登録に関しては、事業者自らの問い合わせが増えており、登録数は順調に増加している。今後さらにパートナー制度の拡大を図るためPRに努めるとともに、パートナーにとって魅力のあるインセンティブを考える必要がある。

また、登録後の意識の向上および取組内容の改善を図るため、パートナー同士の連携を深め、それぞれの取組内容について共有し、学び、考える機会が必要である。

2 高齢者コミュニティ活動創出・支援事業

(1) 「あきたで長く楽しく暮らす方法を見つける研究室」について

平成27年度に秋田市と（株）studio-Lとで共同実施した市内高齢者への取材調査結果をもとに、今年度は、「食事」・「運動」・「身近な楽しみ（歌）」の3つをテーマに、年の差のある友達をつくるための方法を市民とともに考えていくための「研究室」を立ち上げた。20代から80代までの幅広い市民30名が「研究員」として参加し、ワークショップや公開講座を通じて、高齢者が住み慣れた地域で生き生きと活躍するための仕組みづくりと今後の活動を中心に担っていく人材の発掘・育成に努めた。

(公開講座)

	日時	場所	内容
第1回	6月26日(日)	市役所本庁舎 3階市民ホール	「自分のまちで、地域のみんなと食べる」 井上温子氏（NPO法人ドリームタウン代表理事）
第2回	7月10日(日)		「自分のまちで、地域のみんなと運動する」 川田典子氏（静岡県健康福祉部健康増進課）
第3回	8月28日(日)		「自分のまちで、地域のみんなと音楽を楽しむ」 野宮加代子氏（ドラムサークルファシリテーター）

(ワークショップ)

	日時	場所	内容
第1回	平成28年6月26日(日)	市役所本庁舎 3階洋室4	まちのみんなで食べる方法を考える
第2回	7月10日(日)		まちのみんなで運動する方法を考える
第3回	8月28日(日)		まちのみんなで音楽を楽しむ方法を考える
第4回	9月25日(日)	市役所本庁舎 3階音楽室4	アイデアを発想しよう
第5回	10月23日(日)	市役所本庁舎 3階洋室4	アイデアを企画しよう
第6回	11月27日(日)	市役所本庁舎 1階市民ホール	企画を試してみよう ※「年の差フレンズ文化祭」の開催
第7回	12月18日(日)	市役所本庁舎 3階洋室4	試した企画をふりかえろう
第8回	平成29年1月15日(日)		継続する方法を考えよう

(2) 地域の支え合い体制づくりについて

東京大学高齢社会総合研究機構（東大IOG）の学術支援のもと、平成27

年度から市内4地区（泉・御所野・河辺・雄和）をモデル地区に設定し、各地区に配置した生活支援コーディネーターを中心に、地域資源を把握・整理しながら、住民主体のワークショップ等の実施により、各地域のニーズを踏まえた新たなサロン活動等を創出するなど、地域における支え合い体制の構築に取り組んでいる。

地区	協議体の名称	取組の一例
泉	泉地域生活支援協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間作り、新たな担い手育成を目的とした、「団塊シニアを対象とした集い」を開催 ・地域住民が気軽に集う場として「青空サロン」を開催
御所野	南部まちづくり応援協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住に関する「地域支え合いマップ」の作成 ・介護予防を目的とした運動・講習等を行う「ごしょのくらぶ」を開催
河辺	ささえ愛せせらぎ協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を把握するための「地域支え合いマップ」の作成 ・個人宅を開放した「コーヒーサロン」等の各種サロンの開催
雄和	雄和ささえあい協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所づくりとして、「ウォーキング講習」、「オープンガーデン」、「演歌歌謡教室」を開催 ・地域づくりへの意識共有のため、広報紙「雄和ささえあいだより」を発行

(3) 総括と課題

(株) studio-Lによるワークショップ参加者には、高齢者のほか、市職員、NPO活動団体代表、生活支援コーディネーターなど、今後中心的に活動していくことが期待される人材の参加を得ている。また、東大IOGの学術支援による住民主体のワークショップ等についても、地域の資源や課題について住民の間での共有化が進んでいる。

これまでの取組を通じて、住民主体による活動や異なるセクター等との協働に向けたヒントや足がかりは得られたものと考えているが、本取組に対する市民の認知度がまだ低いことから、各種イベント等を通じた周知活動を実施するなど、新たな取組が必要である。

3 エイジフレンドリーシティ普及啓発事業

超高齢社会における様々な課題を共有しながら、行政と市民協働によるエイジフレンドリーシティの実現をさらに推進するため、昨年度に引き続き、以下のとおりリレーセミナーの開催および通信の発行を行った。

(1) エイジフレンドリーシティカレッジリレーセミナーについて (平成28年度リレーセミナー実績)

日時	テーマ・講師	分野	来場者数
11月16日	「まちを支えるモノ、ヒト、コト」 西村 浩氏（株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役、建築家／クリエイティブディ レクター）	まちづくり	109名
3月18日	「元気なうちから知っておきたい在宅医療 と介護～できるかぎりわが家で過した い！を支えます～」 熊谷 肇氏（熊谷内科医院院長） 最上 希一郎氏（山王胃腸科院長） 柴田 融氏（寺内地域包括支援センター寿 光園管理者）	医療・介護	187名

(2) エイジフレンドリーシティ通信について

本年度は、第5号（合併号3，500部）を発行し、エイジフレンドリーシティ実現に向けた市民や企業・団体の活動状況などを紹介したほか、エイジフレンドリーパートナー特集として、全パートナー事業者（2月28日現在65事業者）の主な取組等について紹介した。通信は、市の施設や病院等に設置するほか、関係者に配布し周知に努める。

(3) 総括と課題

エイジフレンドリーシティカレッジについては、本年度は二つの分野について、行政・市民・民間の三者間での課題共有を図ることができた。また、通信については、広く市民に、行政・市民・民間のエイジフレンドリーシティの取組をPRする有効なツールとなっている。

一方、エイジフレンドリーシティの認知度については、年々上昇している（リレーセミナー開催時に実施するアンケート調査による）ものの、より幅広い世代に広く周知するためには、さらに普及・啓発を工夫する必要があると考えられる。

4 高齢者生活支援情報提供事業

(1) 冊子「暮らしに役立つサービス」の発行

介護保険制度に基づく公的機関や専門職によるサービス（フォーマルサービス）以外の支援に関する情報を集約・発信することにより、高齢者を始めとする全ての市民が、生活支援に関わる様々なサービスの情報を得やすい環境を整備するため、昨年度の内容を更新し、21,000部発行した。市の施設や地域包括支援センター等に設置しているほか、関係者に配布し活用を図っている。

(2) 総括と課題

本冊子は、高齢者とその家族をはじめ、高齢者を対象とした相談業務に携わる方々にも好評である。来年度も引き続き、冊子を必要とする方に適切に配布できるよう、広報あきたやホームページを活用しての周知に努めるほか、高齢者やその家族が利用する公共施設や病院をはじめ、各地域包括支援センターなどの相談窓口に十分に設置するよう努める。

平成29年度の取組について

1 エイジフレンドリーパートナーづくり推進事業について

(1) エイジフレンドリーパートナー制度のPR活動の推進

ホームページや広報、エイジフレンドリーシティ通信等の媒体を通じた情報発信による周知に加え、商工会議所などの関連機関と連携し、異業種交流会や事業者の集まりの場におけるパートナー制度のPR活動を積極的に展開していく。

(2) パートナーを対象とした研修会、交流会の開催

ア 秋田市エイジフレンドリーパートナー研修会（年1回）

シニアビジネスとビジネスを通じた地域課題の解決に関し、エイジフレンドリーパートナーの知識と意識の向上を図ることにより、取組の充実と拡大を目指す。第1部は高齢者ビジネス等の専門家による講演会、第2部はパネルディスカッションを行う。

イ [新] 秋田市エイジフレンドリーパートナー交流会（年1回）

エイジフレンドリーパートナー同士の連携強化と、他事業者との取組事例および取組推進における課題や解決方法の共有を主な目的とした、ワークショップ形式の研修会を行う。

2 高齢者コミュニティ活動創出・支援事業

3か年事業の最終年として、高齢者が支え手として積極的に社会参画する意識や地域全体でお互いを支え合う意識をさらに醸成し、市全域での拡大実施に努める。

(1) (株)studio-Lによる取組 ～テーマ型コミュニティの創出～

年の差のある友人関係を築くための仕組みを周知・拡大していくため、年の差フレンズフェスを開催する。また、全市への仕組み普及のため、エイジフレンドリーパートナーをはじめとする民間事業者や関係団体、市職員を対象としたワークショップ形式の勉強会を開催し、多様な主体との協働を図っていくほか、仕組みづくりのノウハウや成功例をまとめたガイドブック等を作成する。

(2) 東大IOGによる取組 ～地縁型コミュニティの再構築・強化～

持続可能なコミュニティ活動の創出と支援体制の充実を図るため、市全域で住民主体によるグループワークや勉強会等を実施する。また、生活支援体制整備事業との連携によるコミュニティ活動創出への動機づけプログラムの推進を図る。

3 エイジフレンドリーシティ普及啓発事業

平成29年度は、引き続き、リレーセミナーの開催および通信の発行を行うほか、新たな取組として、竿燈まつり等でのPR活動およびコインバス映画祭を実施し、さらなる普及・啓発に努める。

(1) エイジフレンドリーシティカレッジリレーセミナー

リレーセミナーを2回開催する。

(2) エイジフレンドリーシティ通信

平成29年度から開始する第2次行動計画の概要を紹介する第6号を発行し、全戸配布する。

(3) [新] 竿燈まつりでの普及・啓発活動

エイジフレンドリーシティシンボルマークをデザインした提灯、うちわ等を作成し、竿燈まつり本番や各イベントにおいて広くエイジフレンドリーシティをPRする。

(4) [新] コインバス映画祭

高齢者が、映画鑑賞をきっかけとして中心市街地へ外出する機会を持てるよう、コインバス映画祭を開催する。6月と9月（月4回、計8回）の開催を予定しており、コインバス資格証明証持参の場合は、料金を割引することを想定している。

4 高齢者生活支援情報提供事業

(1) 暮らしに役立つサービスの発行

引き続き、内容を更新し、25,000部を発行する。